

【国宝】銀象嵌銘大刀に描かれた魚

問 社会教育課 文化係
☎0968・34・3047

江田船山古墳出土の国宝銀象嵌銘大刀^{ぎんぞうがんめい た ち}には、75文字の他に「馬」「花」や、その反対側に「魚」「鳥」が描かれています。今回は、その中の「魚」の絵について見てみます。

絵柄は、91cm長の大刀の柄（握る部分）に近い位置に描かれています。「魚」は口から尾ビレまでの長さが約3cmあり、への字状に曲げた口や鱗^{うろこ}が表現されています。魚の後ろに描かれた「鳥」は、くちばしの形状から水鳥と思われ、魚とほぼ同じ大きさ（約3.5cm長）で描かれています。その配置からは、まるで鳥に狙いを付けられた魚の姿がイメージできます。また、魚の口先は、反対側の馬の鼻先の位置とちょうど同じ位置で、3つの絵柄が刀の両面に計算されて描かれていることが分かります。この「魚」と「鳥」の絵柄は、発見当初は確認されておらず、その後のX線調査によって新しく発見されました。



「魚」の絵は、江田船山古墳の大刀の他に、銅製の飾金具にも描かれています。また、全国的にみると、滋賀県の鴨稻荷山古墳出土の冠^{くわ}や沓^{くつ}の装飾、奈良県藤ノ木古墳等から出土した魚佩^{ぎょはい}（腰などに下げる魚形の飾り）にも、類似した表現の魚が描かれています。これらの魚が意味するものは明らかではありませんが、一度に多くの卵を産卵し多産であるということから、子孫繁栄の願いを込めたものかもしれません。銀象嵌銘大刀の銘文にも、「この大刀を持つものは長寿にして子孫が繁栄する」といった意味の言葉が記されています。

旬のものを簡単アレンジ 「大根とりんご、ハムのサラダ」

問 健康福祉課 保健予防係
☎0968・86・5724



【材料（4人分量）】

大根…………… 300g
塩…………… 少量
りんご…………… 160g
ロースハム…………… 100g
マヨネーズ…………… 80g
牛乳…………… 大さじ2
塩・こしょう…………… 各少々
パセリのみじん切り…………… 小さじ2

【作り方】

- ① 大根は皮をむいて、4～5cmの長さにせん切りする。塩をふってさっと混ぜ、2～3分おいて軽く水で流し水気を絞る。
- ② りんご、ハムは大根と同じ細さにせん切りする。
- ③ マヨネーズに牛乳を加え混ぜてのばし、塩・こしょうで味をととのえる。（ドレッシング）
- ④ 大根、りんご、ハムを混ぜ合わせて器に盛り、食べる直前にドレッシングをかけてパセリをふる。

ひとくちメモ&栄養コメント

大根をサラダなどの生で使用する時には、葉に近い部分を利用することで辛くなく食べやすいです。

文芸広場

かなしき原俳句会

堂焼けて残る山門去年今年 明
寒梅の汚れを知らぬ白さかな しん子
とろ火にて作る露味憎夜の雨 康子
山寺にして名刹や梅古木 弘子
寒々と翳り出したる山の端 誠一
身の恙癒ゆる兆しや水温む 貞子

肥後狂句

寒かなあ でも動かんと弱るだけ 瀬上 歌子
寒かなあ おまけにコロナ世界中 二瀬 桔梗
やつぱり 苦勞した子は出世する 井上りんどう
やつぱり ハラン出とるておもとった 高木せいや
やつぱり ただの仲ではなかごたる 池田 茜
とつけむにやア 日々新記録感染者 石原かわせみ
とつけむにやア 娘んごたる嫁つれち 福永すみれ
とつけむにやア 自費で宇宙へひとつ飛び 庄山 道草



菊水俳句会

どんどの火に松の内お別れす 嶋田 俊一
もくれんの舊銀色青い空 池田 松子
季^き変わりの微^{しる}しのやふに植木市 宮中 康雄
明星のきりと光る余寒^{よかん}かな 永田 紘彦
冬枯れに踏みたる草のやわらけき 本田美穂子

和水町公民館図書室だより

問 中央公民館図書室 ☎0968・86・2022
三加和公民館図書室 ☎0968・34・3047

開館午前9時～午後10時（年末年始除く。） 1回につき1人5冊まで、2週間借りることができます。

心躍る春がやってきました！お出かけしたい気持ちはやまやまですが、以前のように気軽に出かけることができなくなりました。そこで、今月は季節ごとに美しい風景をとらえた『写真集』を紹介します。身近な場所をとらえた写真もありますので、ぜひご覧ください。



「いろは彩 九州四季散歩」 著者：千葉 直

季節ごとに身近な情景をとらえた写真の一枚一枚がとても美しく、心が癒される一冊です。「九州」と表題にあるように県内の写真も多く、和水町で撮影された写真も多く掲載されています。



「いちばん美しい季節に行きたい日本の絶景365日」

著者：TABIZINE

1月1日の世界遺産「富士山の初日の出」から、12月31日の世界遺産「日光東照宮」の雪景色まで、一年365日を日本全国各地の絶景とともにめぐるこの写真集。各地の名勝や風物詩を写したこの一冊で、心の旅に出かけてください。